

# 神戸市立中学校における特別活動のカリキュラム・マネジメント(Ⅱ) ～学校を元気にする具体的実践～

## Curriculum Management of Special Activities at Junior Highschool in Kobe City (II) ～Practical Models to Revitalize the School～

濱口 常雄

### 要旨

前稿では、昭和22年4月に学制改革による新制(六・三制)中学校が誕生して以降の学習指導要領で示された「特別活動領域」について、神戸市立中学校教員の今日まで70年にわたる教育実践の足跡をひもとき、今後の在り方について論述した。

そこで本稿は、神戸市立中学校の「特別活動領域」の具体的教育実践を例示し、教育現場での活用に寄与したい。

キーワード：特別活動実践 参加体験型ワークショップ 学級経営の手引き～中学校編～  
教科等横断的カリキュラム・マネジメント クロスカリキュラム

### I はじめに

神戸市立中学校の特別活動の実践事例の一部を紹介する。それは、あらゆる教育活動の中で神戸の教員が実践してきた様々な取組であり、また、初任者研修や研修セミナー等の研修の中で講師が取り上げるなど、神戸が大切にしてきたものである。

### II 神戸市立中学校の特別活動における具体的実践

神戸市総合教育センターは4年に一度「学級経営の手引き～中学校編～」を編集している。「特別活動領域」の執筆は、神戸市立中学校教育研究会特別活動研究部長と幹事長が担当している。前編の内容を点検し、最新資料の差し替え等を行うなど、中学校現場で若手教員等が有効に活用できる充実した資料になっている。以下にその内容の一部を掲載する。

#### <特別活動と学級経営>

##### 1. 学級活動

###### (1) 人間性を尊重する学級経営

中学校の第一歩である入学式後の学級開きの担任第一声に、生徒・保護者は大きな期待を寄せている。教師はその中で、どんな生徒に育ててほしいのかという「目指す生徒像」を明確に示さなければならない。そして、生徒や保護者との信頼や人間関係を築くためには「温かさ」「細やかさ」「謙虚さ」「明るさ」「情熱」の資質が必要である。具体的には、温もりがあり、気配りができ、弱者の立場に立つことができ、正直であること、素直に謝ることができる、元気でプラス思考、そして生徒・保護者に寄り添うことができる学級経営を実践することである。

---

神戸市総合教育センター 主任指導員

## (2) ビジョンのある学級経営

生徒の個性を理解し、中学卒業の3年後に「こんな生徒に育ってほしい」という中期ビジョン、10年後の成人・社会人・家庭人につながる「どう生きるか」という長期ビジョンを教師の生き様や思いとして伝え、計画的に学級経営を行うことで、生徒の共感が得られ、豊かな人間性が育ち、自身の意欲的な学びにつながっていく。

## (3) 学級経営案の作成

- 1 学級経営目標の設定
- 2 学級の実態把握
- 3 学級経営の指導の重点
- 4 生徒理解の手立て
- 5 学級経営の評価

## (4) 学級目標の設定

- 1 学級担任が、期待する学級像・生徒像を描き、目標の方向を生徒に示す。そして生徒に「どんな学級にしたいか」を問い、話し合いにより集約する。

例：学級目標トーナメント（参加体験型の活動）

KJ法を使い、学級の一人一人が考えた学級目標をトーナメント形式で一つのものに完成させる手法で、目標に対して責任感をもたせ、話し合いを通して相手を尊重し自己中心的にならず、自分の意見を述べる力を高める。

- 2 学級目標を達成させるために、担任は生徒の主体的活動を支える。

## (5) 生徒のやる気を育てる「ねらい」と「評価」

- 1 教師の日常的な生徒観察ときめ細かな関係づくりをする。
- 2 日頃から生徒への声かけをする。
- 3 叱るときは直接的に、ほめるときは間接的に。
- 4 生徒の心に寄り添う。
- 5 教師の感性を磨く。

## (6) 人間関係づくりを進める

- 1 班活動のための意図あるグループ編成をする。
- 2 班活動はリーダー養成の第一歩である。
- 3 席替えによる学級活動のマンネリ化を脱し活性化させる。
- 4 構成的グループ・エンカウンターによる学級開きを行う。
- 5 参加型アクティビティーで活動の楽しさを体験する。
- 6 学級通信の作成と配布は家庭と学校を結ぶ架け橋になる。

## (7) 学級の組織づくり

- 1 学級委員活動で、リーダーとしての意識高揚を図る。
- 2 学級係活動で、自己有用感を培う。

## (8) 教室の環境づくり

- 1 1年間・学期・行事等に合わせ、タイムリーに生徒の活動として掲示物を作成する。
- 2 班活動等による清掃活動で協力と奉仕、責任感を養う。

3 日頃から担任は、設備・安全配慮を心がける。

(9) 居場所があり、居心地のよい学級づくり

- 1 自他の違いを認め、個性を大切にする。
- 2 互いに支え合い励まし合える。
- 3 感動を共有できる。

(10) 話し合い活動

1 発表しやすい雰囲気づくり

① 話し合いの約束を決め、全員で共有する。

<発表の仕方6か条>

- ・ ためらわないで発表しよう。
- ・ みんなの方を向いて発表しよう。
- ・ 全員に聞こえる声で発表しよう。
- ・ 単語だけで言わないようにしよう。
- ・ 結論は先に、理由は後から言おう。
- ・ 言葉は最後まではっきり言おう。

<聞き方4か条>

- ・ 発表する人の顔を見ながら聞こう。
- ・ 発表する人が何を言いたいのかを考えながら聞こう。
- ・ できるだけメモをとっておこう。
- ・ 分からないことは後まわしにせず、その場で質問しよう。

② ユーモアがあり、明るい雰囲気をつくる。

③ 自他を認め、発言を尊重する。

④ 失敗をしても大丈夫であるという学級文化をつくる。

## 2. 生徒会活動

学校の全生徒で組織する生徒会は、学校生活の充実や改善向上を図ることを目的とする。生徒の諸活動についての連絡調整に関する活動及び学校行事への協力に関する活動やボランティア活動を行う。その活動は、学級活動が中心で、その取組に対する学級の意欲がその質と成否を決める。また、学級だけではなく、生徒一人一人の能力や持ち味を「全校アピール」するチャンスであり、生徒一人一人の貢献感や所属感を高める絶好の機会でもある。

指導のポイントは以下の通りである。

① 学級としての役割分担を工夫し、全員の実質的な参加を図る。

② 種々の活動を調整し、時間を設定する。

③ 学級委員だけではなく全員の十分な協力体制をとる。心理的バックアップは委員の意欲向上につながる。

④ 委員は学級の活動を進んで引き受ける。また委員選出は生徒一人一人の責任であり協力を惜しまない。

⑤ 担任は委員の活動を周知し、タイムリーな助言をする。

### 3. 学校行事

学校行事とは、全校または学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深め、自己の達成感が得られる、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動である。教員は、その活動に生徒全員が参加できるように、日頃から生徒との関わりをもち配慮をする必要がある。

#### (1) 学校における行事の分類

##### ① 儀式的行事

- ・入学式 ・卒業式 ・開校記念式典 ・始業式 ・終業式
- ・対面式 ・離別式 ・着任式 ・離任式 等

##### ② 文化的行事

- ・文化祭 ・音楽会 ・講演会 ・芸術鑑賞会 ・造形の会
- ・主張大会・カルタ会 等

##### ③ 健康安全・体育的行事

- ・健康診断 ・防災避難訓練 ・体育会 ・交通安全指導
- ・各種スポーツ大会 ・スポーツテスト 等

##### ④ 旅行・集団宿泊的行事

- ・校外学習 ・修学旅行 ・宿泊訓練 ・野外活動 ・遠足 等

##### ⑤ 勤労生産・奉仕的行事

- ・美化活動 ・就労体験活動（トライやる・ウィーク）・ボランティア活動
- ・上級学校見学（オープンハイスクール） 等

#### (2) 指導のポイント

- ① 計画・立案に生徒も加わり、行事の主役としての意識を高める。
- ② 活動を盛り上げるためにも、協力し合う場面を多く設定する。
- ③ 生徒同士互いのよさを見付け、励まし合い、行事の成功をともに喜ぶ。
- ④ 全ての生徒が参加できるように、事前からしっかり関わり切る。
- ⑤ 配慮を要する生徒には絶えず声かけをし、参加意欲を促す。
- ⑥ 楽しさと喜び・感動を共有できるように工夫をする。
- ⑦ 生徒ともに思い出に残る行事を創る。
- ⑧ 達成感や成就感を実感できるように、できるだけ生徒主体の活動にする。
- ⑨ 生徒に行事のねらいや意義を理解させる。
- ⑩ 事前・事後の取組を大切にする。
- ⑪ 学級等において、班活動や話し合い活動を多く取り入れ、参加への意欲を高める。

### 4. 進路指導

生き方教育としての進路指導と捉え、3年間を見据え、生徒の発達を見極め系統的・継続的に指導し、生徒が主体的に学ぶキャリア教育が求められる。

#### (1) 体験を主体とした進路指導

- ① 神戸マイスターを活用した職業体験（1年生）。

- ② 5日間就労体験学習トライやる・ウィーク（2年生）。
- ③ 夏季休業中等に実施される上級学校の見学オープンスクール（3年生）。

#### （2）キャリア教育が求められる背景

- ① 少子高齢化社会の到来で、産業・経済の構造的変化や多様化・流動化がある。
- ② 就職・就業をめぐる環境の変化が大きい。
- ③ 勤労観・職業観や社会人・職業人としての基礎・基本的な資質に関する課題がある。
- ④ 精神的・社会的自立が遅れ、人間関係をうまく築くことができず、自己肯定感をもてず、将来への希望が薄れ、自己の進路と向き合うことを逃避する傾向がある。
- ⑤ 目的意識が希薄で「とりあえず進学」する子供が増加している。

#### （3）キャリア教育の意義

- ① 一人一人のキャリア発達や個としての自立を促す観点から、教育の在り方を見直し、改革する理念と方向性を示すものである。
- ② 子供の発達段階や発達課題の達成と深く関わりながら階段を一段一段昇るように発達していくことを踏まえ、子供の成長・発達を促す視点に立った取組を積極的に進める。

#### （4）キャリア教育の基本

- ① 「働くこと」への関心・意欲の高揚と学習意欲の向上を図る。
  - ・ 職業や進路などキャリアに関する学習と、教科等の学習との相互補完性を重視する。
  - ・ 進路への関心・意欲の向上と学習の必要性・有用性の認識を深める。
- ② 生徒一人一人のキャリア発達への支援
  - ・ 生徒たちのキャリア発達を的確に把握する。
  - ・ キャリア・カウンセリングの機会を確保し、その質を高める。

#### （5）キャリア教育の取組

生き方指導としての進路指導に取り組む。「人間関係形成能力」「情報活用能力」の育成等を見直す必要がある。前述した、学級活動における委員・係・役割分担や仕事の意義・責任を考え学級づくりを行うなど、日常の学校生活の中でキャリア教育は実践されていく。

#### （6）学級担任としての取組

生徒一人一人が自己を見つめ、自分と社会との関わりを考え、将来、様々な生き方や進路を選択することができるように、担任は、生徒一人一人がもつ能力や適性、潜在的な可能性を十分引き出せるよう、様々な角度から指導・援助をする。

#### （7）組織的かつ系統的な進路指導

- ① 組織的な進路指導
  - ・ 進路指導部      ・ 進路指導委員会      ・ 就学指導委員会
- ② 系統的な進路指導
  - ・ 第1段階：将来の進路への関心をもたせる。
  - ・ 第2段階：自己の適性を知り、進路の明確化を図る。
  - ・ 第3段階：志望する進路について調べる。
  - ・ 第4段階：志望する進路実現のために最大限の努力をする。

## (8) 保護者と連携した進路指導

- ・ 進路指導の目標と計画及び生徒の進路学習、進路相談カウンセリング等についての情報を、進路通信等を通して提供する。
- ・ 進路懇談会・進路保護者会を適切な時期に開催する。
- ・ 授業参観等、生徒の学習の様子を公開する。

## II 神戸市教育課程基準「神戸スタンダード」(2010)

神戸スタンダードは、各学校が充実した特色ある教育課程を編成するための①教育課程基準、児童生徒が知識・技能の確実な定着を図るための②神戸ミニマム、児童生徒が活用力を向上させるための③活用力アップ授業実践事例集等を総称したもので、これらの活用を通して神戸らしい特色ある教育を進め、子どもたちの生きる力をはぐくむことを目標としている。学習指導要領の改訂に伴う10年ぶりの改正で、10年間を見通した神戸の教育の方向性と取組を示したものである。とりわけ、神戸の教育の特色である「防災教育」が教科・領域等でクロスカリキュラム的に組み込まれている。

「特別活動領域」について、以下に詳細を述べる（一部加筆）。

### 1. 特別活動の各活動・学校行事の目標及び内容

〔学級活動〕

#### 1 目標

学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

#### 2 内容

##### (1) 指導内容

学級を単位として、学級や学校の生活の充実と向上、生徒が当面する諸課題への対応に資する活動を行うこと。

##### ① 学級や学校の生活づくり

- ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
- イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理
- ウ 学校における多様な集団の生活の向上

##### ② 適応と成長及び健康安全

- ア 思春期の不安や悩みとその解決
- イ 自己及び他者の個性の理解と尊重
- ウ 社会の一員としての自覚と責任
- エ 男女相互の理解と協力
- オ 望ましい人間関係の確立
- カ ボランティア活動の意義の理解と参加
- キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成
- ク 性的な発達への適応



ケ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

### ③ 学業と進路

- ア 学ぶことと働くことの意義と理解
- イ 自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用
- ウ 進路適性の吟味と進路情報の活用
- エ 望ましい勤労観・職業観の形成
- オ 主体的な進路の選択と将来設計

〔生徒会活動〕

#### 1 目標

生徒会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

#### 2 内容

##### (1) 指導内容

学校の全生徒をもって組織する生徒会において、学校生活の充実と向上を図る活動を行うこと。

- ① 生徒会の計画や運営
- ② 異年齢集団による交流
- ③ 生徒の諸活動についての連絡調整
- ④ 学校行事への協力
- ⑤ ボランティア活動などの社会参加

##### (2) 生徒会組織

- ① 生徒総会
- ② 生徒評議会
- ③ 生徒会役員会
- ④ 各種委員会

〔学校行事〕

#### 1 目標

学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度や健全な態度を育てる。

##### (1) 指導内容

全校又は学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行う。

- ① 儀式的行事 ② 文化的行事 ③ 健康安全・体育的行事 ④ 旅行・集団宿泊的行事

#### 2. 神戸の特色ある取組

〔学級活動〕

#### 1 阪神・淡路大震災の教訓から学ぶ取組

- (1) 避難所運営等から学ぶ中学生ボランティア活動の啓発
- (2) 防災教育読本「幸せ運ぼう」の活用
- 2 クロスカリキュラム編成
  - (1) トライやる・ウィークの実施による「総合的な学習の時間」とのクロスカリキュラム編成
- 3 副読本の活用
  - (1) 「わたしたちの中学生活123」を活用した、学級づくり、進路指導
- 4 研究組織
  - (1) 神戸市立中学校教育研究会特別活動研究部では、「進路指導」分野を独立〔生徒会活動〕
    - (1) 震災でつながる他縣市との「生徒会学校間交流」：仙台市、熊本市他（2011以降）
    - (2) 生徒会ボランティア活動の推進、支援募金活動
    - (3) 神戸市立中学校「いきいき生徒会会議」の企画・実施（詳細は前稿）
    - (4) 生徒会による「神戸マラソン」の応援
  - 〔学校行事〕
    - (1) 「幸せ運ぼう」「わたしたちの中学生活123」（再掲）の活用
    - (2) 「交通安全リーフレット」による安全教育の推進
    - (3) 校外学習による地域を誇る「郷土学習」
    - (4) 地域と連携した「防災・福祉学習」

### Ⅲ 神戸市立中学校の特別活動領域カリキュラム編成

神戸市立中学校は、「特別活動領域」における年間計画と達成状況を毎年神戸市教育委員会に報告している。年間計画1例と全市達成状況を例示する。また、特色ある取組を紹介する。

#### 1. 神戸市立玉津中学校における年間計画（平成29年度）

##### 1 特別活動の目標

「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

##### 2 観点

- (1) 集団活動や生活への感心・意欲・態度
- (2) 集団や社会の一員としての思考・判断・実践
- (3) 集団活動や生活についての知識・理解

##### 3 学級活動

- ・ 学級活動を通して、多くの生徒と望ましい人間関係を形成し、集団の一員として帰属している喜びを与える。
- ・ 学級や学校におけるよりよい生活づくりに協力し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。



- ・ 諸問題の解決のため、学級委員会の充実を図る。
- ・ 学級内の組織づくりの充実を図り、個々の役割に責任をもたせる。
- ・ クラスの問題をリーダーが持ち寄り、よりよい学校生活の実現を図り、問題解決能力を身に付けさせる。

#### 4 生徒会活動

- ・ スローガン「たくましく まっすぐ進もう 強い絆で」
- ・ 望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに協力して、自主的、実践的な態度を育てる。
- ・ 学校生活の充実と向上を図るため、リーダーを育成する。
- ・ 委員会活動を通して、リーダーの育成、問題解決能力の向上を図る。
- ・ チャリティー活動に積極的に参加し、支援を必要とされる方々や地域の助けとなることで、助け合いの心を育てる。
- ・ 空き缶回収を行い、学校整備にあてることで、公共心を育てる。

#### 5 学校行事

- ・ あらゆる行事で「3年は玉中の顔、2年は背骨、1年は足」であることを伝える。
- ・ 望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深める。
- ・ 教師・保護者・生徒の活動による学校づくり  
「花いっぱい運動」「あいさつ運動」
- ・ 宿泊行事を通して、学年リーダーを育成する。
- ・ トライやる・ウィークを通して、就労感・勤労観を学び、進路選択に生かす。

#### 6 「学級活動」指導計画（( )内の数字は時数）

##### (1) 3年生（35時間）

- ・ 4月：学級組織づくり（4）、歓迎遠足に向けて（2）、学級掲示物づくり（1）
- ・ 5月：進路学習（1）、修学旅行に向けて（2）、修学旅行を終えて（1）
- ・ 6月：中間考査に向けて（1）、生活アンケート（1）、予備テストづくり（2）
- ・ 7月：進路学習（1）、1学期の反省（1）、夏休みに向けて（1）
- ・ 9月：学級委員選挙（2）、体育会を終えて（1）
- ・ 10月：中間考査に向けて（1）、人権学習（1）、学校コンクールに向けて（1）、合唱コンクールを終えて（1）
- ・ 11月：進路学習（3）
- ・ 12月：冬休みに向けて（1）
- ・ 1月：学級委員選挙（2）
- ・ 2月：卒業式に向けて（2）

##### (2) 2年生（35時間）

- ・ 4月：学級組織づくり（2）、歓迎遠足に向けて（1）、宿泊行事に向けて（1）
- ・ 5月：宿泊行事に向けて（1）、宿泊行事を終えて（1）学級掲示物づくり（1）  
予備テストづくり（1）
- ・ 6月：中間考査に向けて（1）、生活アンケート（1）、予備テストづくり（1）

進路学習（１）

- ・ 7月：進路学習（１）、1学期の反省（１）、夏休みに向けて（１）
- ・ 9月：学級委員選挙（１）、体育会を終えて（１）
- ・ 10月：中間考査に向けて（１）、人権学習（１）、学校コンクールに向けて（１）、合唱コンクールを終えて（１）
- ・ 11月：トライやる・ウィークに向けて（２）
- ・ 12月：進路学習（１）、2学期を振り返って（１）、冬休みに向けて（１）
- ・ 1月：学級委員選挙（１）、学級組織づくり（１）、進路学習（１）
- ・ 2月：進路学習（２）、性教育（１）、卒業式に向けて①（１）
- ・ 3月：卒業式に向けて②（１）、春休みに向けて（１）

(3) 1年生（35時間）

- ・ 4月：学級組織づくり（２）、歓迎遠足に向けて（１）
- ・ 5月：学校生活について（１）、学級掲示物づくり（１）、宿泊行事に向けて（１）、予備テストづくり（１）
- ・ 6月：中間考査に向けて（１）、生活アンケート（１）、予備テストづくり（１）
- ・ 7月：進路学習（１）、1学期の反省（１）、夏休みに向けて（１）
- ・ 9月：学級委員選挙（１）、進路学習（１）体育会を終えて（１）
- ・ 10月：中間考査に向けて（１）、人権学習（１）、学校コンクールに向けて（１）、合唱コンクールを終えて（１）
- ・ 11月：進路学習（１）、人権学習（１）、期末考査に向けて（１）
- ・ 12月：進路学習（１）、2学期を終えて（１）、冬休みに向けて（１）
- ・ 1月：学級委員選挙（１）、学級組織づくり（１）、進路学習（１）
- ・ 2月：進路学習（２）、性教育（１）、卒業式に向けて①（１）
- ・ 3月：卒業式に向けて②（１）、春休みに向けて（１）

2. 平成28年度達成状況（神戸市立中学校82校集計）

平成28年度の神戸市の特別活動達成状況は、下表の通りである。

1 3年生

時 数	学 校 数	割 合 (%)	最 大 時 数
35～40	65	79.3	57
41～45	9	11.0	最 小 時 数
46～50	6	7.3	35
51～55	1	1.2	平 均 時 数
56～60	1	1.2	38.8
61～	0	0	

## 2 2年生

時 数	学 校 数	割 合 (%)	最大時数
35～40	16	19.5	73
41～45	21	25.6	最小時数
46～50	23	28.0	35
51～55	14	17.1	平均時数
56～60	5	6.1	46.8
61～	3	3.7	

## 3 1年生

時 数	学 校 数	割 合 (%)	最大時数
35～40	6	7.3	76
41～45	23	28.0	最小時数
46～50	18	22.0	35
51～55	21	25.6	平均時数
56～60	7	8.5	49.3
61～	7	8.5	

## 4 集計結果分析及び考察

### (1) 3年生

- ・ 最大時数は57、最小時数は35、平均38.8であった。
- ・ 35～45時間達成の学校が90%以上であった。
- ・ 学力・進路保障のために、教科授業時数が多くなったと考えられる。

### (2) 2年生

- ・ 最大時数は73、最小時数は35、平均49.3であった。
- ・ 46～50時間達成状況の学校が最も多く23校28.0%で、41～50時間の学校が50%以上を占めた。

### (3) 1年生

- ・ 最大時数は76、最小時数は35、平均46.8であった。
- ・ 35～40時間達成上の学校は最も少なく6校7.3%であった。
- ・ 初めての中学校生活であり、オリエンテーションに多く使われたと考えられる。

### (4) 総括

- ・ 特別活動の時間は、教科等横断的に関連付けて実施していることが多い。
- ・ 例えば、望ましい人間関係形成は「道徳」、学校行事である宿泊行事は「社会」、体育会は「保健体育」、合唱コンクールは「音楽」、文化祭は「音楽・美術・技術家庭」、体験的な校外学習やトライやる・ウィークは「総合的な学習の時間」、人権学習は全ての教科領域に関わるなど、相互・双方向的な学習が必要とされる。

- ・「生きる力の育成」は、新学習指導要領においても中心に掲げられた。30年間にわたり柱となっており、とりわけ、特別活動領域の重要課題として位置付け、教育活動を実践していかなければならないと考える。

### 3. 神戸市立横尾中学校の取組（平成21・22年）

以下に、神戸市立横尾中学校の「横尾みらいチャレンジスクール」の取組を紹介する。

#### 1 小中連携

(1) 名称「横尾みらいチャレンジスクールⅠ」

(2) 目的 中1ギャップの課題を克服し、児童が小学校から中学校に進むときの抵抗を和らげ、中学生になるという意識を高めるための支援を行う

(3) 日程 校区内小学校と調整し、1日を設定する（3学期）

(4) 主な活動

- ① 対象：校区内在住の小学6年生全員
- ② 小学校教員が中学校に引率する（転入生は保護者引率）
- ③ 小学6年生の中学校体験入学（時間割を設定する）
  - ・ オリエンテーション：教員及び生徒説明
  - ・ 学校見学：生徒会役員案内
  - ・ 授業体験：理科実験と英語
  - ・ 部活動見学と体験入部
- ④ 新入学説明会（児童及び保護者）
- ⑤ 保護者の中学校授業参観
- ⑥ 保護者の部活動見学
- ⑦ 保護者の教育相談

#### 2 中高連携

(1) 名称「横尾みらいチャレンジスクールⅡ」

(2) 内容 高校2年生が本校で教職体験観察実習を行う（プレ教育実習）

(3) 日時 11月中の2日間（学校公開ウィーク中に実施）

(4) 目標

- ① 教師に求められる能力や資質を知る
- ② 教師の仕事の責任の大きさや喜び、やりがいなどに気づく
- ③ 生徒理解を深める
- ④ 人間関係づくりの大切さを学ぶ

(5) 体験生徒 兵庫県立夢野台高等学校（教職類型）2年生30名

(6) 主な活動

- ① 本校で教職体験観察実習を行う
  - ・ 午前8時に登校
  - ・ 学校見学及び授業参観観察実習
  - ・ 学習支援活動

- 部活動指導支援活動
  - 中学校教職員からの指導助言を受ける
  - 1日の振り返り、実習活動記録ノートの記入
  - 午後6時30分下校
- ② 役割分担1（学級指導補助）
- 第1学年 各学級3名
  - 第2学年 各学級2名
  - 第3学年 各学級2名
  - 特別支援学級 2名
  - 指導教員（各学級担任）
- ③ 役割分担2（教科指導補助）
- 教科希望選択
  - 指導教員（各学年教科担当教員）
- ④ 役割分担3（部活動指導補助）
- 部活動希望選択
  - 指導教員（各部活動顧問）

#### （7）日程

- ① 全体指導：図書室
- 校長講話：校訓、教育努力目標、学校組織
  - 生徒指導：問題行動、生徒理解、不登校、いじめ
  - 学習指導：授業づくり、テスト、分かる授業、評価
  - 指導案：学習の目標、ねらい、計画
  - 教育課程：年間カリキュラム、週時程
  - 教頭講話：家庭・地域の連携、教職員の服務
- ② 研究協議（カンファレンス）：図書室
- 振り返り
  - 感想
  - 質疑応答
  - アンケート記入

#### （8）注意事項

- ① 服装：制服
- ② ネームタッグ
- ③ 持ち物等：体操服、体育館シューズ、運動靴、筆記用具、実習ノート、弁当、水筒、タオル、交通費等
- ④ 携帯電話：電源 OFF
- ⑤ 個人情報の取り扱い
- ⑥ 守秘義務
- ⑦ 体罰の禁止

#### (9) 事前指導

- ① 場所：兵庫県立夢野台高等学校
- ② 時期：10月
- ③ 指導：神戸市立横尾中学校長・教務部長
- ④ 内容：公立中学校の現状

#### (10) その他

- ① 連絡調整：両校教頭
- ② 高等学校教員担当2名
- ③ プレス発表：マスコミへの資料提供
- ④ 実習生の団体保険加入

#### 4. 神戸市立須佐野中学校の取組（平成25・26年）

以下に、神戸市立須佐野中学校の特色ある取組を紹介する。

- 1 教育目標「豊かなこころを持ち、自ら学び、心身ともにたくましく生きる生徒を育む  
～兵庫津で千年の都に思いをはせる～」
- 2 校区 神戸市兵庫区南部に位置し、西は JR 兵庫駅、東は JR 神戸駅、南は兵庫運河・新川運河に囲まれた東西に長い校区を持つ。東には中央市場・ハーバーランド商業地域、南西には大小工場・企業が立ち並ぶ。校区内には「清盛塚」、一遍上人の没地とされる「真光寺」、「能福寺の兵庫大仏」等、「兵庫津」といわれ歴史的名所・旧跡が多く存在している。
- 3 学校 昭和24年に設立され、昭和36年には45学級2,300人のマンモス校であった。神戸市立吉田中学校が新設・独立し、現在は12学級360人の中規模校である。平成8年から10年にかけて大きな「荒れ」を経験し、生徒の問題行動は年間800件を超えた。しかし、地域と連携し協力を得て、現在は生徒の問題行動件数も減少し、比較的落ち着いた学校生活を送っている。
- 4 元気で活力みなぎる学校づくり
  - (1) 「分かる授業」「楽しい学校」の推進
    - ① 教員の授業力・指導力の向上
      - ・ 授業研究旬間（6・11・2月）を設定し、研究授業を行う
      - ・ ベテラン教員から若手教員へ指導技術のノウハウを継承する
      - ・ 教科等指導目標・計画を立て、指導・実践、検証し、教科等指導 PDCA を確立する
      - ・ 教職員研修（OJT）の充実を図る
    - ② 人権文化の創造
      - ・ 個の確立（自尊・自立）、個の尊重（違いを認める）、個の共生（思いやりの心）を大切にする
      - ・ 温もりのある生徒指導、居心地のよい学級・学年・学校の創造
      - ・ 人権教育の推進



(2) 信頼される学校教育の確立＝家庭・地域・学校の連携

- ① 地域・保護者と連携した生徒会活動・学校行事・PTA 行事
- ② 地域行事・地域活動への生徒・教職員の積極的な協力・参加

(3) 地域に開かれた学校づくり

- ① 学校授業公開（6・11・2月）
- ② 積極的な情報発信（HP、学校だより、学年だより、学級通信、校長室夢だより等）
- ③ 学校評価の充実と活用及び学校改善（自己評価・保護者評価・学校評議員評価）

5 学校経営上の構想

(1) 学校の活性化

- ① 若手教員・中堅教員の育成
- ② 学校組織マネジメントを導入

(2) 教職員組織の円熟化

- ① 同僚性の確立（批判的友人関係）
- ② 学校組織力を高める（モチベーションアップ）

6 学年づくり

(1) 1年生（68回生）

- ① スローガン「君の隣の笑顔を見つめて！」
- ② 努力目標
  - ・ 自分を律する力をつけよう
  - ・ 一人ひとりの輝きを探そう
  - ・ 身の回りの環境を整えよう

(2) 2年生（67回生）

- ① スローガン「67回生 空 ～空のように広く大きな心で～」
- ② 努力目標
  - ・ 授業を創ろう！
  - ・ きまりと時間を守ろう！
  - ・ 自分・仲間・ものを大切にしよう！
  - ・ 楽しむためのがまんを知ろう！

(3) 3年生（66回生）

- ① スローガン「Keep and Forward!!! 幸せになろう！」
- ② 努力目標
  - ・ 自分や仲間を大切にし、全員が幸せを感じられる学校生活を送ろう
  - ・ 地域を愛し、地域から愛される須佐野中学生であろう

(4) 特別支援学級

- ① スローガン「自立に向けて、生活力・コミュニケーション能力を高めよう！」
- ② 努力目標
  - ・ 自分のことは自分です
  - ・ 達成感を持ち自尊感情を高める

- ・ 交流授業や作業学習を通じて、大きな集団の中で生活できる力をつける
- ・ 具体的な場面で活用できる、読み・書き・計算の力をつける
- ・ 生活の場面で生きる社会的な技能を身につける
- ・ 自分の将来を見つめて進路を切り拓く力をつける

## 7 特色ある取組

### (1) 1年生(68回生)

#### ① 防災学習

- ・ 防災福祉コミュニティめぐり(班活動)
- ・ 消防体験：区役所・消防署・消防団・企業・防災福祉コミュニティと連携
- ・ 心配蘇生法講習：消防団・防災福祉コミュニティと連携
- ・ ケガの手当て法講習：消防団・病院・防災福祉コミュニティと連携
- ・ 防災ジュニアライセンス認定証授与

#### ② 郷土学習

- ・ 「兵庫津の道」めぐり(班活動)

### (2) 2年生(67回生)

#### ① 人間関係づくり

- ・ 言語コミュニケーション学習(2年間で8回)：劇団ZTONによるコミュニケーション能力育成プログラム(文化庁「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」)

#### ② 生徒主体コンクール(あいさつ・掲示物・忘れ物・清掃活動・家庭学習)

### (3) 3年生(68回生)

#### ① ものづくり体験学習(マイスター活用)

#### ② 20kmウォークラリー(班活動：神戸マラソンのコースを歩く)

#### ③ 中央市場料理体験学習

#### ④ 赤ちゃんプロジェクト(保育体験学習)

#### ⑤ 東京・長野修学旅行(農業体験民泊)

### (4) 特別支援学級

#### ① 創作活動(絵手紙・造形・クリスマスカード・書画・スイーツデコ・チョークアート等)

#### ② 体験活動(職業体験・ICT活用・接客・調理・和菓子作り・スタンドガラス・パン・かまぼことちくわ作り等)

#### ③ 魔法のワンドプロジェクト(iPad活用プレゼンテーション能力の育成)

#### ④ 夢をアニメーションで表現しよう(神戸芸術工科大学まんが表現学科と連携協働)

## 8 成果と課題

### (1) 生徒の変容

本校生徒は、3年間を通して様々な体験や学習をしている。その活動はHP・学校だより等で、地域・家庭に発信している。また、学校の教育活動の中で、活動の評価を生徒に返すようにしている。そうしていくことで、生徒・保護者との信頼関係を築き、学校との連携強化につながっている。

本校は地域の協力なくして学校運営は成り立たない。教育活動の多くの場面で支援してもらっている。地域の方々は「子どもたちに将来地域の一員として活躍してほしい」という強い思いがある。だからこそ学校への支援は惜しまない。過去に防災ジュニアライセンスを取得した卒業生が消防団に所属して活動している。子どもたちは様々な活動を通して「命の大切さ」を学び、「自尊感情」を培い、「自己肯定感」や「自己有用感」を少しずつではあるがもつことができるようになってきた。子どもの活躍や変容は、教師にとっても大きな力となっている。

## (2) 教師の変容

教員の世代交代が進み、資質・指導力の向上が課題であると言われて久しい。教員は地域・学校・子ども・保護者から多くのことを学ぶ。子どもに寄り添い、子どもを中心に据え、子どもが輝く主体的な活動を支援していくことによって子どもは変容する。子どもが変われば教師も変わる。そして学校も変わる。子どもとともに学び、地域から信頼され、学校に関わる全ての人々が、生き生きと活力あふれる学校になっていくことを期待する。

## 5. 神戸市立須佐野中学校で活用した学級・学校を元気にする参加体験型アクティビティー ＜資料1＞構成的エンカウンター「会話のキャッチボール」

1 ねらい 体を動かしながらの活動は心を開放しやすい。自分の素直な気持ちを端的にわかりやすく表現し合うことで、相互理解を深めるとともに、自己表現力を高める。

2 対象 小学生・中学生・高校生・大人等

3 対象人数 1学級（50人位までの集団）

4 時間 30分程度

5 場所 体育館・講堂・多目的室・運動場等

6 準備 柔らかいボール・玉入れ用の玉

7 エクササイズ

① 2人組をつくり、無言でキャッチボールをする（1分間）。

② 次に相手にボールを投げるときに、何か一言を添える。

③ ボールを受け取る側は、ボールと一緒に相手の気持ちを受けとめ、一言を添えて返球する。

④ キャッチボールを続ける（5分間）。

⑤ 相手を代えて行う。

8 シェアリング

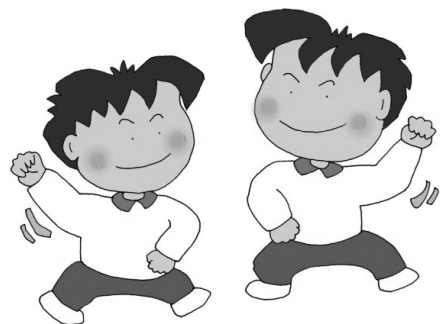
① 2人で感想を出し合う。

② 学級全体で感想を出し合う。

9 アレンジメント

① 2人組の会話のテーマ（話題）100選の中から1つを決める。

② 4人組（ボール1つ）もおもしろい。→人間関係力



<テーマ例>

・学校園	・学級	・学年	・学校園行事	・休み時間	・友だち
・勉強	・遊び	・スポーツ	・昨日のこと	・1週間	・休日
・春	・夏	・秋	・冬	・旅行	・ドライブ
・車	・温泉	・海	・山	・神戸	・大阪
・奈良	・京都	・東京	・趣味	・本	・音楽
・特技	・苦手	・好き	・嫌い	・成功	・失敗
・うれしい	・おもしろい	・楽しい	・いいところ	・腹立つ	・家庭
・家族	・名前	・健康	・将来	・夢	・10年後
・50年後	・仕事	・服装	・買い物	・おしゃれ	・グルメ
・動物	・ペット	・食べ物	・おいしい	・野菜	・果物
・お菓子	・テレビ	・携帯	・メール	・パソコン	・デジカメ
・スマホ	・世界	・日本	・政治	・経済	・環境
・宇宙	・天気	・資源	・リサイクル	・エネルギー	・少子化
・高齢化	・老後	・原発	・平和	・戦争	・人権
・差別	・生命	・生命	・命	・死	・権利
・自尊感情	・教育	・子ども	・保護者	・クレーマー	・校園長
・教頭	・先生	・同僚	・いじめ	・自己紹介	等

<資料2>自己振り返りシート「自分さがしの旅」

～自己肯定感、自己有用感、自己有能感、自己実現へ～

なまえ ( )

1 今の自分について ～自分ってどんな人～ ※数字に○をする

5：とてもそう思う 4：そう思う 3：ふつう 2：あまり思わない 1：まったく思わない

(1) 外見や見えること

- ① 自分は人間 (5-4-3-2-1)
- ② 自分は男 (5-4-3-2-1)
- ③ 自分は女 (5-4-3-2-1)
- ④ 自分はウシ (5-4-3-2-1)
- ⑤ 自分はトラ (5-4-3-2-1)
- ⑥ 体が大きい (5-4-3-2-1)
- ⑦ カッコいい・かわいい (5-4-3-2-1)
- ⑧ すばしこい・運動神経が良い (5-4-3-2-1)
- ⑨ 力が強い (5-4-3-2-1)
- ⑩ かしこい・勉強ができる (5-4-3-2-1)
- ⑪ きれい好き (5-4-3-2-1)
- ⑫ だらしない (5-4-3-2-1)
- ⑬ 落ち着きがない (5-4-3-2-1)
- ⑭ 自己主張が強い (5-4-3-2-1)
- ⑮ よくしゃべる (5-4-3-2-1)

(2) 性格的なこと

- ① 明るい (5-4-3-2-1)
- ② 優しい (5-4-3-2-1)
- ③ 前向き・プラス思考 (5-4-3-2-1)
- ④ 集中力がある (5-4-3-2-1)
- ⑤ あきっぽい・あきらめる (5-4-3-2-1)

- ⑥ 気が強い (5-4-3-2-1)
- ⑦ 気が短い (5-4-3-2-1)
- ⑧ ずるい (5-4-3-2-1)
- ⑨ 泣き虫 (5-4-3-2-1)
- ⑩ さみしがりや (5-4-3-2-1)
- ⑪ 小さなことにこだわる (5-4-3-2-1)
- ⑫ わがまま・自己中心的 (5-4-3-2-1)
- ⑬ はずかしがりや (5-4-3-2-1)
- ⑭ 感情的になることが多い (5-4-3-2-1)
- ⑮ うそつき (5-4-3-2-1)

(3) 考え方や言動

- ① 食べ物の好き嫌いが多 (5-4-3-2-1)
- ② 遊ぶことが好き (5-4-3-2-1)
- ③ 自分は正しいと思うことが多い (5-4-3-2-1)
- ④ 人と比べる・人のことが気になる (5-4-3-2-1)
- ⑤ ものを大切にす (5-4-3-2-1)
- ⑥ 人のせいにする (5-4-3-2-1)
- ⑦ いやなことから逃げる (5-4-3-2-1)
- ⑧ 最後までやり遂げる (5-4-3-2-1)
- ⑨ 言い訳をする (5-4-3-2-1)
- ⑩ 暴力はいけない (5-4-3-2-1)
- ⑪ 差別はいけない (5-4-3-2-1)
- ⑫ 戦争はいけない (5-4-3-2-1)
- ⑬ いじめはいけない (5-4-3-2-1)
- ⑭ 人の命は尊い (5-4-3-2-1)
- ⑮ 自分が好き (5-4-3-2-1)

(4) 他人との関わり

- ① 友だちが多い (5-4-3-2-1)
- ② 友だちを大事にする (5-4-3-2-1)
- ③ 人を信じる (5-4-3-2-1)
- ④ 一人であることが好き (5-4-3-2-1)
- ⑤ 困っている人がいたら助ける (5-4-3-2-1)
- ⑥ 人の話を聞くことができる (5-4-3-2-1)
- ⑦ 人の悪口・陰口を言う (5-4-3-2-1)
- ⑧ 負けず嫌い (5-4-3-2-1)
- ⑨ 意地悪 (5-4-3-2-1)
- ⑩ 手が出る (5-4-3-2-1)
- ⑪ 見て見ぬふりをしてしまう (5-4-3-2-1)
- ⑫ おせっかい (5-4-3-2-1)
- ⑬ 人の意見を受け入れられる (5-4-3-2-1)
- ⑭ 人がうらやましい (5-4-3-2-1)
- ⑮ 自分は役に立っている (5-4-3-2-1)
- 2 人に言われてうれしいこと ( )
- 3 人に言われていやなこと ( )
- 4 自分の強み (セールスポイント) ( )
- 5 自分の弱み (身に付けていきたいこと) ( )
- 6 学年 (担任) の先生に一言 ( )

<資料3>学級づくりシート「共創考開シート」

～自分・学級・学年を知り、課題を共有しよう～

名前 ( )

- 1 小学校では、あなたはどのような児童会・委員会・係活動をしていましたか。  
児童会活動 ( ) 委員会活動 ( )  
係活動 ( )
  
- 2 中学校では、あなたはどのような生徒会・委員会・係活動をしていましたか。  
1年生 1学期 ( ) 2学期 ( ) 3学期 ( )  
2年生 1学期 ( ) 2学期 ( ) 3学期 ( )  
3年生 1学期 ( ) 現在 ( )
  
- 3 あなたが所属している (していた) 部活動は何ですか。役割があれば書いてください。  
( ) 部 役割 ( )  
※ 部活動には入っていなかった
  
- 4 あなた自身はどのような中学校生活を過ごしていますか。  
※ 下記の(1)～(10)について、A B C Dのいずれか1つを選び、○で囲んでください  
A：よくある (よくそう思う) B：ときどきある (ときどきそう思う)  
C：あまりない (あまりそう思わない) D：まったくない (まったくそう思わない)  

(1) 学校を休んだり、遅刻することがある	A - B - C - D
(2) チャイム着席を守っている (時間を守っている)	A - B - C - D
(3) 休み時間は友だちとよく遊ぶ	A - B - C - D
(4) 授業に一生懸命取り組んでいる	A - B - C - D
(5) 授業中よく発表する	A - B - C - D
(6) 忘れ物をする	A - B - C - D
(7) 悩んだり困ったりしている友だちの相談にのる	A - B - C - D
(8) 先生とよく話す	A - B - C - D
(9) 委員や係の仕事に責任をもってやり遂げる	A - B - C - D
(10) 部活動に積極的に参加している	A - B - C - D
  
- 5 あなたが所属する学年や学級はどんな雰囲気ですか。  
※ 下記のうち「あてはまる」と思われる項目について ( ) 内に○印をつけてください  
(1) 教室がきれい ( )  
(2) 元気がいい ( )  
(3) あいさつができる ( )  
(4) 学習に真剣に取り組む ( )  
(5) 人の意見によく聞くことができる ( )  
(6) 人の悪口を言わない ( )  
(7) 担任や教科担当、学年の先生に気軽に相談できる ( )  
(8) 互いに認め合い、励まし合える ( )  
(9) 優しさや温もりがある ( )  
(10) 何事に対しても積極的に一生懸命取り組む ( )
  
- 6 あなたが所属する学年や学級のいいところは何ですか。  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_



7 あなたが所属する学年や学級のどんなところが好きですか。

---

---

8 あなたが所属する学年や学級のどんなところが嫌いですか。

---

---

9 あなたが所属する学年や学級において、あなたの役割について、考えたことを書いてください。

---

---

10 中学校の先生（校長先生、担任・学年の先生）に一言

---

---

---

---

## V おわりに～神戸市立中学校の特別活動領域の今後のあり方～

前稿で述べたように、神戸市は神戸市教育委員会と神戸市立中学校教育研究会特別活動研究部が車の両輪となり、学校現場と連携・協働して特別活動領域の取組が行われてきた。

資料「わたしたちの中学生活1・2・3」は昭和28年に第1版が発行され時代に即して内容は改訂され、現在は第55版になっている。生徒一人に1冊ずつホームルームに常備し特別活動の授業で活用されてきた。生徒たちは豊かな心をはぐくみ、生き方を学び、将来の夢や希望をもち、キャリア形成をしてきた。3年間の主体的に取り組む体験的な活動によって、人間関係を学び、生徒は自己肯定感・自己有用感を培い、生徒に社会の構成員として生きる自信をもたせることができているのではないだろうか。

また、教員用の「学級経営の手引き～中学校編～」は昭和53年に第1版が発行され現在は第12版になっている。これは学級経営に関わる教員の資質・指導力向上のために作成されたもので、特に若手教員には欠かせない指導書である。この手引きによって学級経営の基礎・基本を学び、具体的に実践していくことで指導力が向上した教員は多い。

この2つの資料は、まさに神戸の特別活動の誇りであり宝であり、後世に豊かに受け継がれるべきものであろう。

平成30年度から新学習指導要領の移行期間になる。特別活動においては平成33年4月1日の全面実施を待たずに、先行実施される予定である。新学習指導要領に即した上記の資料の改訂や、カリキュラム・マネジメントの視点である「教科等横断的な学習」「主体的・対話的で深い学び」「地域社会に開かれた特別活動カリキュラムの編成」の実現に向けて具体的な改善を進めていかなければならない。

最後に、資料提供をいただいた、神戸市立玉津中学校、神戸市立横尾中学校、神戸市立須佐野中学校にお礼申し上げる。

<参考・引用文献等>

- 濱口常雄ほか『家庭・家族問題に関する調査研究報告書』兵庫県教育委員会・神戸市立兵庫中学校（1998）  
『人権教育推進資料《人権教育基本方針の解説と実践事例》』兵庫県教育委員会編（1998）  
濱口常雄ほか『人権教育研究実践報告書』兵庫県教育委員会・神戸市立兵庫中学校（1999）  
濱口常雄『特別活動に期待するもの～豊かな学校文化を構築するために～』神戸市立中学校教育研究会特別活動研究部総会講演資料（2006）  
濱口常雄『会議の持ち方・進め方』神戸市立中学校教育研究会特別活動研究部第44回生徒会会議講演資料（2006）  
『学級経営の手引き～中学校編～』神戸市総合教育センター編第10版（2007）  
濱口常雄『活力あふれる生徒会活動』武庫川女子大学附属高等学校・中学校「夏季リーダートレーニング」講演資料（2008）  
『神戸市中学校教育課程－神戸スタンダードー』神戸市教育委員会（2010）  
濱口常雄『特別活動は学校を元気にする～学校教職員に期待するもの～』兵庫県中学校教育研究会特別活動研究部春季研修会講演資料（2015）  
濱口常雄ほか『豊かな心を持ち、自ら学び、心身ともにたくましく生きる生徒を育む』神戸市立須佐野中学校「人権教育」研究発表会資料（2015）  
大橋忠司『いじめの未然防止の発想に立った学級づくりと特別活動（学級活動）』同志社大学（2015）  
『わたしたちの中学生活1・2・3』神戸市立中学校教育研究会編第55版（2015）  
『特別活動研究部総会資料』神戸市立中学校教育研究会特別活動研究部編（2015）（2016）  
『春季研修会資料』兵庫県中学校教育研究会特別活動部会編（2015）  
田村知子『カリキュラムマネジメントによる学校改善』教育時評39（2016）  
『学級・学校文化を創る特別活動【中学校編】』文部科学省国立教育政策研究所編（2016）  
『中学校学習指導要領解説特別活動編』文部科学省（2017）  
「中学校学習指導要領比較対照表【特別活動】」文部科学省（2017）  
『主体的・対話的で深い学びの実現－カリキュラム・マネジメントの確立－』神戸市教育委員会（2017）  
濱口常雄『世代間（とき）を超えて豊かにつながり合う人権教育～人・夢・未来の創造～』神戸市立中学校教育研究会人権教育部全市研究集会講演資料（2017）